

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1992. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 94

日本野鳥の会 埼玉県支部

# My Field 大麻生

冬から春にかけてはバードウォッチングに最適な季節、数多くの探鳥会が目白押しです。さて、週末はどこに行こうかと迷っているあなた。たまには身近な大麻生で、のんびり一日を過ごすのはいかがでしょうか。

## はじめに

大麻生は熊谷市付近の荒川中流域に位置し、県内でも有数の探鳥地です。多様な自然環境に恵まれ、四季を通じてさまざまな鳥達に出会う事ができます。そのため県支部では毎月第2日曜日に探鳥会を行っています。しかし面積がかなり広く、個人でバードウォッチングに行く場合、ただ闇雲に歩いても空振りに終わる可能性があります。そこで探鳥会での観察ポイントを中心にご紹介しましょう。

## 土手の上から

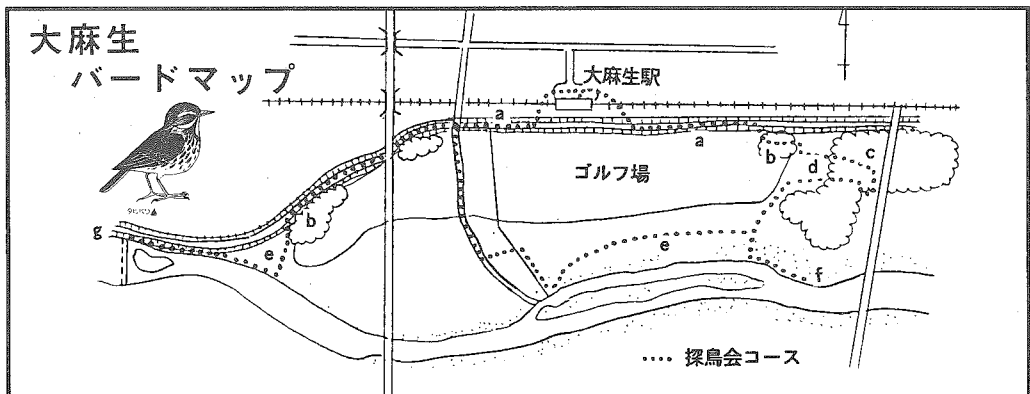
秩父鉄道大麻生駅から線路沿いにどちらに行っても踏切を渡れば土手の上 (a) に出ることができます。土手では季節により、サクラやクサボケの花が楽しめるでしょう。このサクラの木には秋の渡りの季節にはツドリ、コサメビタキが訪れます。目の前にはゴルフ場が広がりますが、コースにはムクドリ、ヒバリ、土手との境界の草むらにはホオジロ、冬にはカシラダカが見られます。河原の上空に目をやると、夏にはコアジサシ、冬にはカワウ、ユリカモメ、カモ類が飛んでいるのが見えます。また、猛禽の姿が見られることも有るでしょう。反対側の住宅地に目をやると、キジバト、スズメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミなどが見つかるでしょう。

## 林の中で

林はあちこちに散在するコナラ、シイなどの疎林 (b) と、野鳥の森と呼ばれる混合林 (c) にわけることができます。疎林ではホオジロ、カワラヒワ、シジュウカラ、コゲラ、ツグミ、シメなどが、運がよければ、アカゲラ、アオゲラなどの中型キツツキが見られます。また新緑のころにはかなりの確率でニューナイスズメを見ることができます。野鳥の森は藪が深く、夏は余りバードウォッチングに向いていません。冬の野鳥の森への道を注意深く歩いていくと、アオジが道端で草の実をついばんでいます。また雨の後の水たまりでは、アオジ、シメなどが水浴びをしていることがあります。森の中ではウグイス、シジュウカラが鳴いています。野鳥の森の杉林では、シジュウカラ、ヒガラ、クイタダキ、メジロ、コゲラの混群が見られます。今年はこちらにヤマガラの番が加わりました。

## 畑で

野鳥の森とゴルフ場の間にはトウモロコシ、牧草を栽培している畑 (d) があります。作物のない冬には、ツグミ、ムクドリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイ、コチドリなどが虫を探しています。とくに畑が耕された後は多くの鳥達が集まります。この畑の周りの林にはモズ、ジョウビタキ、ホオジロ、



鳥種名	春	夏	秋	冬
1 カイツブリ	◎	◎	◎	◎
2 カワウ	◎		◎	◎
3 ダサギ	◎	◎	◎	◎
4 チュウサギ		◎	◎	
5 コアサギ	◎	◎	◎	◎
6 アサギ	◎	◎	◎	◎
7 ササゴイ		◎		
8 ゴイサギ			△	
9 コマギ	△			◎
10 マガモ	◎	◎	◎	◎
11 カガモ	◎	◎	◎	◎
12 ナガモ	◎	◎	◎	◎
13 オナガ	◎	◎	◎	◎
14 キンクロ	△			◎
15 ミトサビ	◎			◎
17 オハヤブ	◎	◎	◎	◎
18 タカサ			◎	◎
19 ヨシ	◎	◎	◎	◎
20 コジュ	◎	◎	◎	◎
21 キバ	◎	◎	◎	◎
24 ドリ	◎	◎	◎	◎
25 チドリ	◎	◎	◎	◎
26 シロ	◎	◎	◎	◎
27 ムナ	◎	◎	◎	◎
28 キョウ	△			◎
29 マサギ	◎	◎	◎	◎
30 シンギ	◎	◎	◎	◎
31 キンギ	◎	◎	◎	◎
32 イソ	◎	◎	◎	◎
33 ユメ	◎	◎	◎	◎
34 コサ	◎	◎	◎	◎
35 カワ	◎	◎	◎	◎
36 カワ		◎	◎	◎
37 カツ		◎	◎	◎
38 ツツ			◎	◎
39 アリス			△	
40 アオ	◎			◎
41 アカ	◎			◎

鳥種名	春	夏	秋	冬
42 コゲ	◎	◎	◎	◎
43 ヒバリ	◎	◎	◎	◎
44 ツバ	◎	◎	◎	◎
45 イワ	◎	◎	◎	◎
46 キセ	◎	◎	◎	◎
47 ハセ	◎	◎	◎	◎
48 セグ	◎	◎	◎	◎
49 タヒ	◎	◎	◎	◎
50 ヒヨ	◎	◎	◎	◎
51 モズ	◎	◎	◎	◎
52 ジョ	◎	◎	◎	◎
53 トラ	◎	◎	◎	◎
54 アカ	◎	◎	◎	◎
55 ツグ	◎	◎	◎	◎
56 ウグ	◎	◎	◎	◎
57 オオ	◎	◎	◎	◎
58 キキ	◎	◎	◎	◎
59 セッ	◎	◎	◎	◎
60 コサ	◎	◎	◎	◎
61 ヒヤ	◎	◎	◎	◎
62 ヤマ	◎	◎	◎	◎
63 シン	◎	◎	◎	◎
64 メジ	◎	◎	◎	◎
65 ホオ	◎	◎	◎	◎
66 カシ	◎	◎	◎	◎
67 ミヤ	◎	◎	◎	◎
68 アオ	◎	◎	◎	◎
69 カワ	◎	◎	◎	◎
70 ママ	◎	◎	◎	◎
71 ベニ	◎	◎	◎	◎
72 イカ	◎	◎	◎	◎
73 シメ	◎	◎	◎	◎
74 ニウ	◎	◎	◎	◎
75 スズ	◎	◎	◎	◎
76 ムク	◎	◎	◎	◎
77 カケ	◎	◎	◎	◎
78 オナ	◎	◎	◎	◎
79 ハシ	◎	◎	◎	◎
80 ハシ	◎	◎	◎	◎
種類数	59 (35)	34 (21)	44 (20)	53 (37)

◎:探鳥会の常連達 ○:見れたらラッキー △:神様ありがとう

カワラヒワなどが見られます。また、キジ、コジュケイの声を聞いたり、姿を見ることが出来ます。

草地で

野鳥の森が期待できない夏はアシの繁る草地(e)に行ってみましょう。夏のアシ原にはオオヨシキリ、セッカ、ヒバリが囀っています。また秋の渡りの季節にはノビタキを見ることが出来ます。冬にはニセアカシヤにカワラヒワの大群が見られます。

河原で

探鳥会では最後に河原でセキレイ類、カモ類、サギ類、シギ・チドリ類を観察して終わります。河原は今年の護岸工事や台風の影響でだいぶ様子が変わりました。流れは元に戻りましたが、カワセミのお気に入りの木はもうありません。一年を通して、カルガモ、カイツブリ、コサギ、アオサギ、イカルチドリが見られます。春秋の渡りには数は多くありませんがシギが通過していきます。また春から夏にかけてコアジサシ、ミサゴのダイビン

グが見られることでしょう。冬には熊谷大橋付近(f)でコガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモが多く見られます。明戸堰付近(g)では夏にササゴイやバンの親子の姿を見ることが出来ます。堰の上流は禁猟区ではないため、猟期にはカモは多くありません。しかし、時々カワセミの姿を見ることが出来ます。3月になると北国に帰るカモ達が羽を休めています。一昨年にはコハクチョウも来ましたが今年はどうでしょうか。

最後に

ここ2年間に大麻生で見られた鳥のリストを表に示しました。以前に比べて鳥達を取り巻く環境は確かに悪くなりましたが、まだまだ大麻生は捨てたものではありません。( )内の数字は◎の数です。探鳥会で観察される種類数の期待値とみていいでしょう。大麻生の環境について詳細を知りたい方は、海老原の報告 1)を参照してください。

1) Strix 9:117-125 (1990)

(菱沼一充)

# サハリン自然紀行 — 渡航編 —

平野 伸明

夜の九時過ぎにサハリンからの電話が鳴った。「明日の朝に、川崎港に入るソビエトの船・イリンスクに乗って下さい。それを逃すとしばらくサハリン行きの船は東京近港には入りません。・・・」

サハリンからの連絡はいつも急である。明日と言われたって車にはまだ何も積み込んでないのに。でも、いやだなんて言ってもらえない。確かにこれを逃すと、今度はいつになるのかわからないのだ。夜を徹して荷物の積み込みに取りかかった。冷蔵庫や洗濯機などの電化製品に始まって、車のタイヤ4本、オイル、バッテリー、寝具、衣類、米、味噌、醤油、缶詰め、そのほかたくさん。そして撮影機材。。。頑丈なはずの4WDトラックが重量に耐え切れず、腰をかがめている。でも、どれひとつ欠かしてもむこうに移住するには困るのだ。今のサハリンには、何もないのだから。

明け方の4時、積み込みが終わった。朝食をかきこんで、車に飛び乗った。じょじょに太陽が上りはじめて、オレンジ色の朝日がアスファルトを照らしはじめた。

\* \* \*

川崎港の埠頭に着岸したイリンスクはソビエトの貨物船で、丸太を積んできた。煙突の

部分にソビエト連邦の国旗が描いてある。僕は、さっそくキャプテンルームを訪ねて、たどたどしいロシア語で船長に挨拶した。船長の手元には、すでに僕の名前が書かれたサハリンからの電報があり、「君のことは連絡をうけているよ。ゆっくり船旅を楽しみなさい」と笑顔で迎えてくれた。第一関門通過。

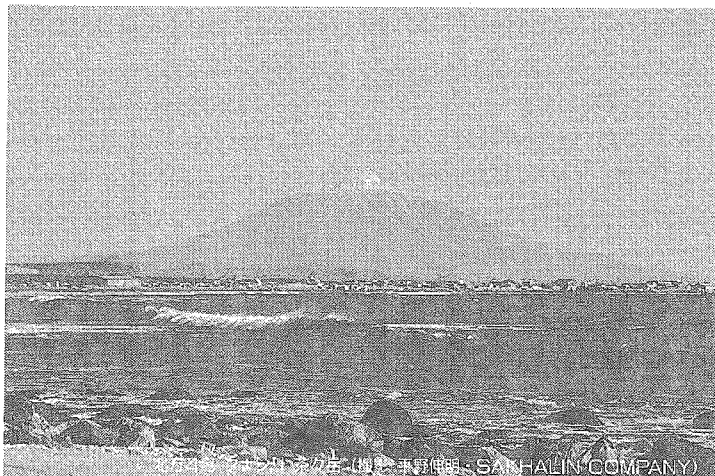
次は通関手続きだ。積み込みリストを見て、「おつなか」さんが「ココムにひっかかるものばかりだねえ」と唸ってしまったが、これもなんとかパス。

午後には丸太の積み下ろしも終わり、荷物を満載した僕の車がデッキの上に積み上がると、ようやくこれからサハリンに行くんだなあ、と気分も高揚してきた。ところが、キャプテンから出港は翌朝になったと聞いてがっかりしたが、少しほっとした気持ちにもなった。出港が翌朝なら、こんなに慌てて準備しなくてもよかったのに、と急に心に余裕もできて、岸壁に腰をおろして、さわやかな春の海風を楽しんだ。

\* \* \*

翌朝7時、イリンスクは碇をあげた。岸壁には妻の香保里と母親が見送りにきてくれていたが、ちょっぴり照れ臭くて、すぐ船室にもぐりこんでしまった。

川崎からサハリンまでは、約4日の船旅である。日本の三陸沖を北上し、クナシリとエトロフの間を抜けて、サハリンに近づくにつれて風は冷たくなってゆく。5月初旬の北の海の風は、まだ冬のなごりを残していた。船の上空には、いつのまにかオオセグロカモメが、十数羽飛んでいて、陸地の近いことを教え



北法四島・クナシリ茶々岳

(平野伸明)

てくれる。船先の海面からたくさんのウミズメがあわてて飛び立ってゆく。右手の水平線に陸地が見えてきた。

サハリンの南端の港、コルサコフには午後1時に着いた。この日は日曜日だったが、ロシア人の友人たちが出迎えに来てくれていた。車を船から吊り下ろして、税関の審査と入国の手続きをして、やっと港のゲートをくぐったのは、午後5時過ぎだった。

なんとかサハリンに来た。初めて自分で運転するソビエトの右車線に少しとまどいながら、僕は一路ユジノサハリンスクをめざした。

\* \* \*

僕のサハリンでの生活が何とか落ち着くまでに、まるまる一ヶ月の時間を必要とした。それはなぜかとは一言ではとても語れないが、この国の国民性とシステムのなせる技を今の日本人が理解するのは、むずかしいだろう。たとえば、日本なら電話一本のものの5分で済んでしまうことが、延々車を2時間も走らせて、1時間も待たせたあげく、「また明日」の一言で終わってしまうこの悲しさ。初めて体験した者にとっては、思わず茫然としてしまうソビエトのこれらは、体制の激変にもなって、ますます拍車がかかってゆく。

それも考えようによっては、貴重な体験をさせてもらっている、とも言えなくもない。

そんななかで、僕は双眼鏡ひとつ持ってユジノサハリンスクの周辺の林を、北の鳥目当てに歩き回った。南サハリンの自然環境は北海道に似ているせいもあって、鳥相も似かよっている。森林性の環境に住む鳥、草原性の環境に住む鳥……。しかし、そこに北の国サハリンならではの鳥たちが混じって生息していることに気がつくのは、もう少し僕が北の自然になじんでからであった。

\* \* \*

サハリンと日本とでの、鳥を見る環境の異なる点。

サハリンでは、ゆっくりと誰はばかりことなく、自然を楽しむことができる。見渡す限りの地平線、音のない沈黙の世界。地球は広い!とつくづく実感してしまう。

しかし、一人で森をのんびりとは歩けない。

クマが多い!サハリンのヒグマは超弩級の大きさである。それに車から離れられない。人間の泥棒が多い!機材など中に置いておけば、車のガラスを割られて、持ち去られてしまうし、よい車なら車ごと盗まれてしまう。つくづく日本はいいなあ、と実感してしまう。

\* \* \*

今、サハリンは日本や韓国のビジネスマンが怒濤のようにながれこみ、つい数年前までの牧歌的雰囲気とは、程遠いものとなっている。

それでも僕は、親子三人で何年かしばらくここに住み、小さな小屋でも借りて暮らしてみようと思う。もっとたくさんロシア語も覚えたいし、いろいろな鳥や獣も見てみたい。どうせ乗りかかった船だから。どうせ僕にはこんな楽しみかたしか、できないから。



ほんとは寒い!

(押川歳子)



# 野鳥情報

**アカエリカイツブリ** ◇12月4日、戸田市道満貯水池で1羽（高橋達也）。

**カワウ** ◇12月11日午後7時45分頃、戸田市の戸田ポートコース上空を荒川上流方面に向かって約800羽の群れが通過した。ポートをこいでいた人たちは「何だこれは！」と大騒ぎしていた（高橋達也）。

**ダイサギ** ◇12月8日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で1羽（中司隆由）。

**コハクチョウ** ◇12月5日午前7時頃、本庄市の阪東大橋下流で成鳥2羽、幼鳥2羽。本流上空をクルリと廻って中州におりる。約30分程羽を休めてから北東に消える（町田好一郎）。◇12月29日、熊谷市の明戸河原で成鳥2羽、幼鳥1羽（山口輝雄）。

◇1月9日、10日、熊谷市の荒川大橋上流側の荒川で3羽（森本國夫）。

**アメリカコガモ** ◇12月14日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽（井上幹夫）。

**オカヨシガモ** ◇12月8日、志木市の柳瀬川高橋～栄橋間で♂1羽（中司隆由）。

**スズガモ** ◇11月5日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽（井上幹夫）。

**ミコアイサ** ◇11月26日、本庄市の阪東大橋下流で9羽。その内2羽は♂のエクリプス。これまでの最高数（井上幹夫）。◇11月29日、所沢市久米の松ヶ丘遊水池で♀4羽（佐藤方博）。◇12月9日、戸田市道満貯

水池で♂5羽（小谷野勝栄）。12月23日、同所で♂27羽♀2羽。5年ぶりにオスを見たけれど、やっぱりかわいかった。メスもかわいかった（高橋美保子）。

**オオタカ** ◇12月4日、戸田市道満貯水池で成鳥2羽。5分間に渡って空中戦を展開！貯水池にいたカモやサギ達も舞い上がっててんやわんやの大騒ぎ（高橋達也）。◇12月30日、寄居町の鐘撞堂山で2羽。ハイツカ1羽と一緒に気流に乗って、旋回していた。1月4日にも1羽。松の木にとまっているところをカラスにモビングされて飛び去る（田口浩司）。◇1月7日午後2時頃本庄市の阪東大橋下流の中州、流木上で若鳥1羽。ハンティングに失敗し、落ち込んだのか、約2時間位水雨の降る中じっとたたずんでいた。可哀想（町田好一郎）。

**ハイロチュウヒ** ◇11月9日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽。目の前を横切り、カメラでバッチリ撮れた（井上幹夫）。

**コチドリ** ◇12月4日、幸手市下吉羽の中川で7羽（秋間利夫）。◇12月8日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で2羽（中司隆由）。

**イカルチドリ** ◇12月8日、幸手市下吉羽の中川で5羽（秋間利夫）。◇12月31日、午前11時54分、狭山市の間川、本富士見橋上流10メートルにて1羽。右脚に蛍光黄緑色左脚に濃紺色のカラーリングをしていた（三田長久）。

**シロチドリ** ◇11月26日、幸手市木立の中川で3羽（秋間利夫）。

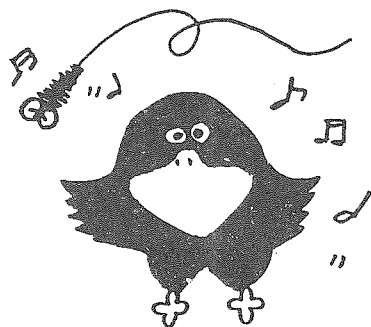
**ダイゼン** ◇11月12日、本庄市の阪東大橋下流で冬羽1羽（井上幹夫）。

**トウネン** ◇11月9日、本庄市の阪東大橋下流で5羽。12月3日、同所で2羽（井上幹夫）。

**オジロトウネン** ◇11月9日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。12月3日、同所で2羽（井上幹夫）。

**ツルシギ** ◇11月22日、富士見市の柳瀬川で1羽（福井 亘）。

**セグロカモメ** ◇12月14日、志木市の柳瀬川高橋～栄橋間にユリカモメの群れ中に1羽（中司隆由）。◇12月19日、幸手市木立の



（厚沢清美）

中川で1羽(秋間利夫)。

- コミミズク ◇12月10日午後1時40分本庄市の阪東大橋下流で、2羽。1羽が車のすぐ前をひらひらと飛んでくれ、もう1羽は、先のアシ原で。昼間からビデオでバッチリ撮れた(井上幹男)。◇12月21日、同所で1羽。生物部の生徒と河原でバーベキュー兼バードウォッチング中、河原の草地の上を約10分間飛び、さかんに急降下しハンティングを試みていましたが、結局何もとれなかったようです。あのまんまるい顔がバーベキューをしている私たちの方に迫ってきました。焼き肉ほしかったのかな?(北川慎一)。◇12月15日午後2時30分、川口市差間の芝川より東側の刈取の終わっている広い田んぼで2羽。1羽は手前の田んぼに、もう1羽は道をはさんだ向こう側の田んぼにおり、ゆったりと低空飛行をしていましたが、時々この2羽は少し高めの所をスピードをつけて飛びかかっていました。田んぼに降りた時には、顔をクルッと背中の方に向けてましたので、ゆっくり観察できました(石井純子)。◇12月21日浦和市の見沼田んぼ、浦和・越谷線の南側で2羽(福井 亘)。
- アカゲラ ◇12月3日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽。さかんに木の幹をつつきエサとりに忙しい。そこに1羽のヒヨドリ。珍しい客にちょっかいを出す、アカゲラは相手にせず(井上幹男)。◇12月7日、深谷市の千元山公園で1羽(菱沼一充)。
- ビンズイ ◇12月7日、深谷市の千元山公園で1羽(菱沼一充)。
- ヒレンジャク ◇12月14日、寄居町赤浜で6羽。15日には、18羽(保坂達司)。
- ルリビタキ ◇11月20日、大宮市日進町1丁



(押川歳子)

- 目で♀1羽。当所では初めて見ました(森本國夫)。◇12月1日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽。1月3日、同所で♂1羽♀2羽(田口浩司)。
- コガラ ◇12月7日、深谷市の千元山公園で1羽(菱沼一充)。
- ミヤマホオジロ ◇11月26日、熊谷市大麻生で♂1羽。いつもアオジのいる場所に今日は珍客がいました(菱沼一充)。◇1月4日、北本市石戸宿の自然観察公園で♀1羽(内藤義雄)。
- ハギマシコ ◇11月17日、戸田市道満の調整池近くで25羽。草の実をついばんでいて近くによっても逃げなかった(富沢哲志)。
- ベニマシコ ◇11月12日、深谷市の上武大橋下流で♀1羽(井上幹男)。◇12月1日、寄居町の鐘撞堂山で♂♀各1羽。一時的ではあるが、カラの混群と行動を共にしていた。1月3日、4日にも同所で♂♀各1羽観察する(田口浩司)。
- ウソ ◇12月1日、寄居町の鐘撞堂山で10羽以上。1月3日にも同所で7羽以上(田口浩司)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1991 入選作

## コミミズク (フクロウ科)

めっきり緑が目立ち始めた3月半ばの久保農耕地。とは言え、まだまだ夕方の冷え込みは冬のもの。

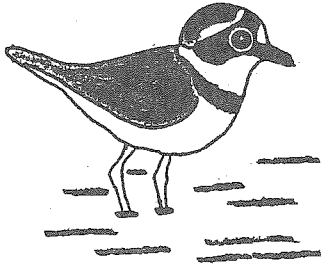
日の沈み始めた土手すじを、ゆっくりと行ったり来たりして獲物を探す。時に見つけた

獲物に、反転、急降下で襲いかかる姿は、思いのほか猛々しい。まさに猛禽!

「筈に羽を付けたような」と言った人がいたが、今、取り消しておこう。

野川一臣(大宮市)

# 行事あんない



(佐藤方博)

## 荒川村・日野溪谷探鳥会

期日：3月1日(日)

集合：午前10時 秩父鉄道武州日野駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:25発または西武秩父線所沢8:22発快速急行(秩父鉄道直通)に乗車

担当：海老原美夫

見どころ：もっと欲ばって自然を楽しもう。そっと春を告げる道ばたの花、イノシシの足跡、ムササビの巣穴etc…鳥のほかにも、おもしろいモノ、いろいろ。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月8日(日)

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:00発または秩父鉄道寄居8:52発に乗車

担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、関口善孝、諏訪夕香子、菱沼一充、神沼幸三郎

見どころ：ウグイスやキジが、あちらこちらで冬の終わり宣言。“さあ、春が来たよ。みんな、出ておいで!”

## 川越市・西川越探鳥会

期日：3月8日(日)

集合：午前9時、JR川越線西川越駅前

担当：佐久間博文、乗田実、長谷部謙二、石井幸男

見どころ：水辺はいつも、のんびり気分。ひなたぼっこのカモ君や優雅にたたずむサギの仲間など、水鳥たちの姿は心を

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

なごませてくれます。

## 東京都・高尾山探鳥会

期日：3月14日(土)

集合：午前9時 京王線高尾山口駅前

交通：京王新宿7:59発急行に乘車

担当：登坂久雄、松井昭吾、中島康夫

見どころ：埼玉県支部初の高尾山探鳥会です。ヤマガラが比較的多く見られます。エナガやシジュウカラの混群やルリビタキも。

## 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：3月15日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子、田口浩司

見どころ：春のたよりが待ち遠しい。南の国々を出発したツバメたち、今はどの辺かな? 探鳥会にまにあってくれるといいですね。

## 長野県・軽井沢探鳥会

期日：3月15日(日)

集合：午前9時10分 JR信越本線中軽井沢駅  
解散：午後3時ごろ

交通：JR大宮6:42発高崎線普通に乗車、高崎で特急に乗り換え。または大宮7:22発特急あさま1号に乗車。下車駅は中



軽井沢です。おましがえのないように。

担当：林滋、町田好一郎

見どころ：ペニマシコやレンジャクを探して、  
風花の舞う別荘地をそぞろ歩く、ロマンチックな一日。あたたかな服装でお越し下さい。

### 秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月20日（金・祝）

集合：午前9時40分 西武線西武秩父駅前  
交通：秩父鉄道熊谷8：25に乗車、御花畑下車、徒歩5分／西武秩父線所沢8：22発快速急行に乗車

担当：海老原美夫、福井恒人、林滋

見どころ：桜に群れるウソは、秩父の春の風物詩。優しい口笛が、そよ風にのって流れてゆきます。

### 狭山市・入間川探鳥会

期日：3月22日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口  
解散：正午頃、稲荷山公園にて  
担当：長谷部謙二、三田長久、石井幸男、佐久間博文、柳原正昭、小野光明  
見どころ：ツバメ、イワツバメ、ヒメアマツバメ、入間川の春は彼らの乱舞から始まります。上ばかり見ているとつまらないように、気をつけて下さい。

### 浦和市・見沼ヘルシーロード探鳥会

期日：3月28日（土）

集合：午前9時 大崎事業所裏の芝生のグラウンド  
交通：JR浦和駅西口1番バス乗り場より大崎事業所行き8：18発または東川口駅行き8：26発に乗車、大崎園芸植物園下車  
担当：伊藤芳晴、楠見邦博  
見どころ：春を迎えた里の鳥。光あふれる野で、高らかに歌うヒバリやホオジロ。桜もちらほら咲き初める頃。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月28日（土）午後1時～2時ごろ  
会場：支部事務局

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：3月28日（土）午後2時ごろ～5時  
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

### 神奈川県・城ヶ島探鳥会

期日：3月29日（日）

集合：午前10時10分 京浜急行三崎口駅前  
解散：午後3時ごろ  
交通：京浜急行品川18：53発特急に乗車  
担当：小林みどり、草間和子  
見どころ：ウミウ、クロサギなど、県内ではまずお目にかかれない海辺の鳥たちをたずねます。はるか沖には、オオミズナギドリ姿も...

### 北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：3月29日（日）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前  
担当：中島康夫、入山 博、松井昭吾、山部直喜、五十嵐浩、吉原俊雄  
見どころ：絶世の美男！と、もっぱら評判、渡良瀬のハイロチュウヒ氏。まだ、いるでしょうか。ひと目でも見たい、その端正な姿。

### 東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：4月24日（金）夜行～26日（日）

集合：24日20時 JR浜松町駅東京寄り改札口  
帰路：東京港に26日19時20分頃到着の予定  
費用：18,000円の予定（1泊3食、往復交通費、保険など）。他に島でのバス代若干。  
定員：20名程度（先着順、県支部会員優先）。  
申込み：往復葉書に住所・氏名・電話番号・年齢・性別を明記して北川慎一（まで

担当：北川

草間和子、菱沼一充

見どころ：恒例・バードアイランドの旅。アカッコやイイジマムシクイのさえずりのシャワー。帰りの船からコアホドリやミズナギドリ類も間近に見られます。新鮮な海の幸もお楽しみに。

# 行事報告

12月1日(日) 本庄市 阪東大橋

人 28人 天気 晴 鳥 カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ カワアイサ トビ オオタカ キジ シロチドリ ハマシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 無風、小春日和、ポカポカ陽気……。12月の阪東大橋では考えられない程良いお天気だった。それなのに、リーダーを含め参加された皆さん(プフッ!! 笑っちゃいけない)全員が完全冬支度で、カモを見ながら1枚脱ぎ、そしてカワセミのダイビングを楽しんだ後でまた1枚脱ぎ、鳥合わせでもう1枚思い切って脱いでしまった(あーあ、しんど!!)。カンムリカイツブリ、カワアイサ、カワセミは全員ばっちり。今回は帰り道の土手の上で鳥たちがやさしく見送ってくれたので、今回もひそかに期待したが、やっぱりノスリとチョウゲンボウが見送ってくれた。これだから阪東大橋は最高なのだ。(追伸、リュックの中に暖かいお茶とホッカイロをしのばせて来たのはリーダーだけだったのかな…?) (町田好一郎)

12月1日(日) 北本市 石戸宿

人 32人 天気 快晴 鳥 カイツブリ カワウ コサギ アオサギ オオタカ ノスリ コジュケイ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カ

シラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 青空をバックにノスリとオオタカ。紅葉した木々に見え隠れするアカゲラ。枯れ木の梢にシメやモズ。カワウの大編隊も出現。イチョウの黄葉も見事。舞台と役者のそろった小春日和の探鳥会だった。(岡安征也)

12月7日(土) 浦和市 見沼ヘルシーロード

人 15人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ キジ タゲリ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 小春日和の一日。心配していた初めてのコースは、キジやタゲリ、ツグミやジョウビタキなど、みんなが顔を見せてくれた、ホントに気持ちのいい田舎の散歩道でした。(伊藤芳晴)

12月8日(日) 熊谷市 大麻生

人 26人 天気 曇 鳥 カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 今にも泣き出しそうな大麻生の空。探鳥会が始まると間もなく、薄暗い曇空をバックに真黒なカワウが、約70

羽の編隊を組んで、阪東大橋の方へ飛行をして行った。しかし地上では、気温が低いためか、なかなか鳥が姿を現さない。それでも、カシラダカやジョウビタキなど冬鳥たちはそろっているようだ。(諏訪隆久)

### 12月8日(日) 越生町 麦原地区

人 21人 天気 曇 鳥 コサギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(22種) 枯葉を踏み、イノシシの獣道などを観察しながら、のんびりと山道散歩。越生名物のユズが少ないのは台風のせい、昨年より鳥が少ないのはまだ暖かいからかなどと話していたら、最後にちゃんとスターのカワセミが登場。さすが出番を心得ています。今年もコース途中で野鳥の不法飼育をしている家があり、福井鳥獣保護員による指導的一幕がありました。(海老原美夫)

### 12月15日(日) 滑川町 森林公園

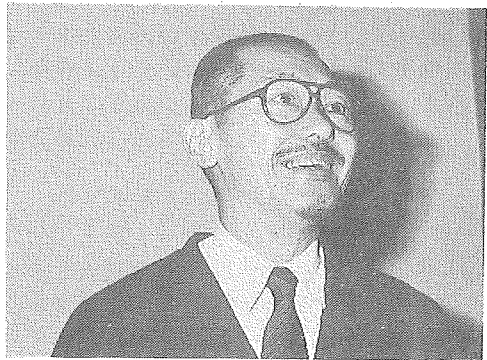
人 90人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オナガガモ ホシハジロ コジュケイ キジバト アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(36種) リーダーは参加者の数にびっくり。鳥もびっくりしたのか、いつもより数が少ないような気がした。でも、ルリビタキやシロハラも出てくれて、やれやれ。締めくくりは、山田大沼のトモエガモとその上空でショーを繰広げたアオサギの編隊。終了後に弁当を広げていると、上空をオオタカが通過。(森本國夫)

### 12月15日(日) 浦和市 三室地区

人 45人 天気 晴 鳥 カワウ コサギ

カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ イカルチドリ タゲリ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ シラゴバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(35種) 今年最後の探鳥会で、ゆっくり、静かに、仲良く歩きました。今年も楽しい鳥と仲間の探鳥会ができました。中学生のときから三室の探鳥会に来ていたY君が大学に入学が決ったとかで、久しぶりに顔を見せ、地元三室の小学生の兄弟がやってきたり、三室の探鳥会は来年100回を迎えます。(楠見邦博)

### 12月22日(日) 年末講演会



参加者 48人

第1部 「埼玉県支部の1年」スライドにビデオも登場して、支部活動を報告。

第2部 講演「オーストラリア鳥事情」日豪渡り鳥条約政府間協議の日本代表の一人として参加した塚本洋三専務理事の講演は、まずカメラが古いという言い訳から始まったが、大丈夫、鳥の向こうには、ちゃんとビキニ姿も写っていた。オーストラリアで激減し、日本でも生息環境の急激な悪化が心配されているコアジサシの話など興味いっぱい、あっという間の2時間だった。

第3部 「懇談会」ご婦人連が数日前から用意してくれたオデンなどを囲んで歓談。せまい事務局に30数人が入り込んだものだから、にぎやかなこと。(海老原美夫)



編集内容のご紹介 Part 1

[表紙] 題字『しらこぼと』は山下静一前会長筆。全体デザインは支部会員のデザイナー鷹尾正済さんの作品、1987年4月号から変わっていません。写真はフォトコンテスト入選作をご紹介します。投稿作品は採用しないと決めているわけではないのですが、例えば3月に撮影して4月に投稿、それを6月号の表紙になると季節感がずれてきます。あらかじめ準備できる入選作品の方が表紙写真としては使いやすいです。「地鳴きコーナー」「野鳥情報」欄などでは投稿写真大歓迎。今年もフォトコンテストを予定していますので、そちらへの準備をお願いします。

[特集記事 (P2,3)] 編集会議で企画していろいろな人に執筆依頼しています。企画についてはさまざまなアイデアがあると思います。こんな記事が読みたい、こんな記事を書いたら、こんな記事なら書けるけど……。どうぞ遠慮なく編集部までお聞かせ下さい。

[各部のページ・地鳴きコーナー・さえずりコーナー (P4,5)] 各部からの報告などの「各部のページ」、会員諸氏からの気楽なお便りの「地鳴きコーナー」、主張と討論の場の「さえずりコーナー」を、その時々自由に構成していくページです。カット、イラスト、写真などの投稿もお待ちしています。カットは黒インクのしっかりした線でお書き下さい。ハーフトーンは印刷しにくいものですから。ご投稿の採否は編集部にお任せください。内容ではなく、紙面スペースの都合から、もっぱら「分量」で選ぶ事もありますので、掲載されない事があってもどうか怒らないでください。字句の訂正や文章の短縮をさせていただく事もあります。

(P6~12については次号以後)

3月の土曜日当番 (2時~6時)

- 7日 林 滋 登坂久雄 (役員会議)
- 14日 山部直喜 海老原美夫 (編集会議)
- 21日 連休中なので事務局休みます。
- 28日 袋づめの会 (1時から)

ご寄付と支部賛助会費

岡部泰三 5,200円、草間和子賛助会費 8,000円、草加小山学童保育クラブ 3,000円、田村62円切手40枚、戸隠探鳥会参加者 1,250円、忘年会参加者 4,929円、松井昭彦14,700円、森本國夫賛助会費 8,000円。

ありがとうございました。(50音順、敬称略)

会員数は

2月3日現在 1,791人です

活動報告

- 1月8日 編集会議 (2月号編集作業、印刷所に入稿)。
- 1月19日 役員会議 (司会・長谷部謙二、各部の報告・杉並区環境展ECO AID'92への協力依頼について・探鳥会予定・その他)。
- 1月21日 『しらこぼと』2月号納品。
- 1月24日 本部理事会 (都内渋谷区) に海老原理事出席 (平成3年度事業報告案と決算見込み・4年度計画案と予算・その他)。



働き過ぎの日本人といわれるけれど、週休二日制も定着してきて、消費の主役は「カネ持ち」から「トキ(時)持ち」へと移っているという。充実した時間を個人がどう過ごすかに関心が持たれてきた証でもあろう。私も“おかげ”の口で「鳥見を覚えてよかったわネ」と家でいわれている。鳥見にでかけた留守にトキ持ちを楽しんでいる訳だ。編集の手伝いもトキ持ちにさせて、なお且つ感謝してもらえるという充実した半日でした。

(内藤義雄)

『しらこぼと』1992年3月号 (第94号) 定価 100円 (会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048 (832) 4062  
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町 107号 郵便振替東京9-121130  
 印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)